



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hoyukai.org/>

第161号

発行:2019年9月15日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会

動脈硬化性疾患に対する取り組み

本郷クリニック 院長 荒川 健太郎



この度、2019年4月に本郷クリニックの院長に就任した、荒川 健太郎と申します。今回は、動脈硬化のお話を少しだけさせていただきます。

2017年に不健康な食事の影響で死亡した人は全世界で約1100万人にのぼり、全死亡患者の5分の1を占めていたことが報告されています。(Murray CJL. et. al, Lancet 2019)。この研究では、食事に関する15の危険因子のうち、塩分過剰摂取(300万人)と全粒穀物摂取不足(300万人)、果物摂取不足(200万人)に起因した死亡が、不健康な食事に関連する死亡の50%以上にのぼり、喫煙関連死亡をも凌駕すると言われております。こうした生活習慣病の終末像が動脈硬化症です。冠動脈患者の脂質異常症、特にLDLコレステロールについては、米国では2013年ガイドライン以降、罹患当初からの高強度スタチン投与が一般的になっている(いわゆる“Fire and Forget”)のに対し、2017年日本動脈硬化学会ガイドラインでは、検査値を見て内服量調節することとなっています。(“Treat to Target”)。近年、日本人においても前者の治療法の優位性を示す報告がなされている一方で(Taguchi I. et. al, Circulation 2018)、LDL-c<70mg/dLでは出血性脳卒中が増えるという海外からの報告もあり(Pamela M. et. al, Neurology 2019)、実臨床では今後も検査値を見ながらの診察が必要と思われれます。

このような背景を鑑みて、本郷クリニックでは、2019年度より2つの新規事業を開始しています。1つは診療所では珍しい、管理栄養士による個人栄養指導です。患者様の食事に対する理解を深めることは疾病予防の根幹であるにもかかわらず、医師による診療時間内の説明だけでは限界があるのは自明であり、それを打破するための方策です。実際に栄養指導による生活習慣への介入のみで劇的に改善するCaseを何度も経験しています。もう1つはHbA1c および血中脂質の院内迅速測定です。日常生活における食事・運動療法の努力の成果を即、可視化することは、患者様のモチベーションを上げるために有用と思われれます。

とはいえ、現代医療の生活習慣病に対する介入研究では、心血管イベントの抑制率はいずれも20~40%程度にとどまり、残余リスクが間違いなく存在します。手前味噌ではありますが、腸管壁漏洩症候群(Leaky Gut Syndrome)、すなわち炎症・食生活の乱れ、生活習慣の乱れなど何らかの原因により腸管バリア機能が低下した結果、本来血管内に取り込まれることはない異物(菌・ウイルス・たんぱく質等)が血液内に漏れ出す現象が動脈硬化症の残余リスクとなりうるということを我々は報告しておりますので、御一読頂ければ幸いです。(Arakawa K. et. al, PLOS One 2019)。

本郷クリニック

内科・循環器内科・呼吸器内科・アレルギー科

住所：横浜市瀬谷区本郷3-20-21 【駐車場12台】

電話：045-304-2017

診療時間・曜日	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	○	○	○	休	○	○※
午後14:00~18:00	○	○	○	休	○	休

休診/木曜日、土曜日午後、日曜・祝日、第4週の土曜日
第2週の土曜日は、湘南泉病院の医師が診察します。



荒川 健太郎 院長

この度、2019年4月に本郷クリニックの院長に就任しました。

私は、大学卒業後、心臓・循環器の専門医として、大学病院や地域の中核病院で主に冠動脈カテーテル治療や心臓の集中治療、救急医療を行って参りました。

循環器専門医、総合内科専門医の知識と経験を元に、風邪等の一般内科疾患や呼吸器内科疾患を始め、高血圧、糖尿病、脂質異常症（高コレステロール、高中性脂肪血症）などの生活習慣病や、心不全や心臓弁膜症、不整脈、冠動脈疾患（狭心症や心筋梗塞）などの循環器疾患の診療を行っております。

地域の皆様に安心して生活していただけるよう、親切・丁寧な診療を心がけて参ります。

健康に関する疑問やご質問等がございましたら、お気軽にご相談ください。地域の皆様に信頼される『かかりつけ医』となれるようスタッフ一同誠心誠意努力して参ります。

どうぞよろしくお願いいたします。



受付



レントゲン機器



超音波診断装置



待合室